令和6年度
西宮市　認知症地域支援推進員活動報告

西宮版チームオレンジ（みやっこ🍊range）に向けて～わかみや会を通して見えてきた形～

認知症地域支援推進員について

1　認知症地域支援推進員：2名

令和3年度から“認知症つながり推進員”の通称で活動中

2　認知症地域支援推進員の役割

（1）認知症の正しい理解と支援方法等に関する周知・啓発を推進する

・認知症サポートべんり帳（認知症ケアパス）、認知症チェックシートの普及・啓発

・キャラバン・メイト養成・育成支援、認知症サポーターステップアップ講座支援

・認知症早期発見・対応啓発講座の開催

・あったか見守り声かけ講座の開催及び開催支援

（2）認知症の人を支援する関係者との連携

・包括、医療機関、家族会、社会福祉協議会などとの連携

・認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チームとの情報交換・ケースの共有（認知症連携推進会議）

（3）認知症の人や介護者を支える体制の充実

・認知症研修会、事例検討会の開催

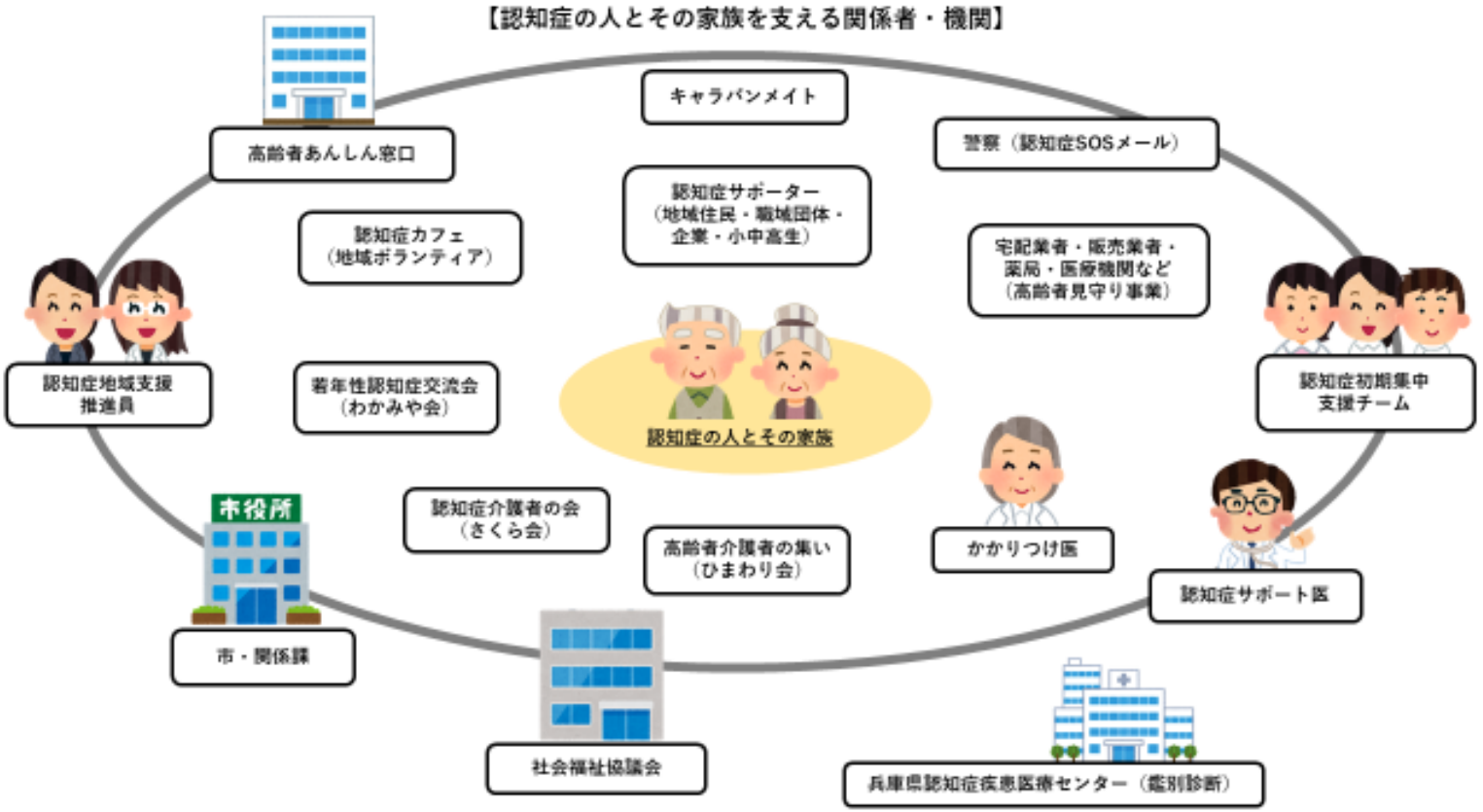
・認知症カフェの立ち上げ・継続支援

・若年性認知症交流会『わかみや会』の運営支援及び若年性認知症の人と家族への個別支援

・認知症の本人や家族ができる範囲での役割を持ち、認知症サポーターとともに、本人や家族の支援ニーズに合った活動を支援する仕組み西宮版チームオレンジ（みやっこ🍊range）を構築

報告者氏名：地域共生推進課　西本麻依子
認知症地域支援推進員　後藤香織・齋藤環

西宮市　認知症施策全体図



協議体について

社会福祉審議会（高齢者福祉専門分科会）	高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定
①認知症施策検討委員会	認知症施策全般の施策推進に向けた関係団体の協議
②実務者全体会	認知症施策の行政・専門職の実務担当者による各施策の情報共有・遂行に向けた協議
③コアメンバー会議	認知症施策の地域づくりに関する担当者による会議
④連携推進会議	認知症施策の個別支援に関する担当者による会議

⑤西宮版チームオレンジ（みやっこ🍊range）に向けて
～若年性認知症交流会“わかみや会”を通して見えてきた形～

1．チームオレンジに向けたプロセス（動き）

- 2025年度実施に向けて、2022年度からコアメンバー会議で検討開始
- 『西宮版チームオレンジ』を検討する中で「**わかみや会**」が、支援する・されるの関係を越えてともに楽しく活動していることに気づく。

➡わかみや会をイメージの中心に据えて、考えていこう。
➡西宮版チームオレンジを**言語化**（考え方、どんな取組・活動、どこで？）する。

言語化

① 取組、活動に関わる人を支援する人・される人という関係性を越えて一緒に活動し楽しい時間を過ごす仲間という関係づくりを目指す
② 出来ること、やりたいことの継続や発見・再発見し活動していく
③ 不安や悩みを打ち明けられる
④ 話合ったり、繋がったり、学びあえる
⑤ 日常生活に溶け込んだ取組・活動になる

- 他にも認知症の人が参加・活動しているところに聞いてみよう（**意見交換会の開催**）

① 各場へ聞き取りに伺う（各場所の活動や大切にしていることなど）
② 2回の意見交換会（令和5年3月17日と令和5年7月31日）の開催

➡西宮版チームオレンジ＝みやっこ🍊rangeが明確化し、共通認識形成へ。
「認知症であってもなくてもともに生きていくまち西宮」をスローガンに進めていくことになる。

2. 西宮版チームオレンジを考える上で中心に据えたわかみや会参加者の声

本人の声
- わかみや会は楽しい
- もっと仲間が増えて欲しい
- わかみや会がなかったら寂しい
- わかみや会に貢献したい

家族の声
- 本人もわかみや会は、『仲間』という意識があるようだ
- デイサービスではどうしてもお客さんになってしまう。お客さんではない居場所は大切

本人や家族、ボランティア、スタッフが交流し、ともに考え、活動する中で、互いに影響を与えながら、理解し、みな等しく仲間という意識が形成され、今のわかみや会に至った。（スタッフと意見交換会参加のVoの認識）

わかみや会は・・・
- 本人家族交流会
- 本人活動日

と月2回活動しています。

ボランティアの声
- いつも通りの空気感
- 普通に人と知り合う感覚
- 小学校のクラスメイトのような感覚
- サポートするというよりも自分も一緒に楽しむ
- 何かしてあげるという垣根はない

3.わかみや会をみやっこ🍊range（西宮市版チームオレンジ）に！

本人・家族・ボランティアの声からもまさしく“わかみや会”はみやっこOrangeの考え方そのもの！しかし、急に“わかみや会”は「みやっこOrange」ですね、と言っても何のことだかわからない…。

なぜなら…

- わかみや会のメンバーは意識することなく、自然体で「みやっこOrange」を体現している。
- そもそも「みやっこOrange」なんて、初耳でよくわからない。

まずは、わかみや会のボランティアさんに「みやっこOrange」の事、その考え方を知ってもらいたい。そして、すでにわかみや会ではそれを体現していることに気付いてほしい！

そのために

- 年２回開催しているボランティアミーティングで伝えていく
- 西宮市の広報番組「フロム西宮」でわかみや会に焦点を当てたみやっこ🍊rangeの啓発番組を作成する

4. フロム西宮での啓発番組の制作

- 毎回のわかみや会開催時に啓発番組の制作の趣旨を説明し、撮影の同意を得て、スタッフでも動画や写真を撮影していく。
- ➡ 過去にもわかみや会の広報番組作成の話はあったが、当時より若年性認知症当事者の誰かに焦点が当たるような番組制作はやめようと意見が出ていた。今回も誰かに焦点が当たるような番組ではなく、活動そのものや啓発につながる内容がいいとの意見をもらう。
- 市（認知症担当課と広報課）、社協、推進員とで構成案や作成スケジュール等を協議していく。
- ➡ 台本の内容まで一緒に協議
- ➡ 12月のクリスマス会の様子を撮影し、2月に放送することなる。

クリスマス会の撮影の様子

クリスマス会に向けての計画や準備もわかみや会の中で話し合いを進めている。
番組中のボランティアさんのインタビューでは**「ボランティアをしているというより一緒に楽しんでいる」「認知症はそんなに怖くないと思うようになった」**との言葉もあった。

5.わかみや会ボランティアミーティングで共有

- 3月のボランティアミーティングで広報番組を一緒に見て、その後、推進員から「みやっこOrange」について簡単に説明を行った。

➡広報番組を見てもらってから、みやっこOrangeを説明したので、イメージを持ってもらいやすかっただけでなく、まさにわかみや会がみやっこOrangeそのものだという事を知ってもらえた。

振り返ってみると…

ボランティアミーティングでの共有だけでなく、撮影当日に向けての毎回のわかみや会での活動そのものが「みやっこOrange」の理解にもつながっていた。

今後は

2025年度　西宮版チームオレンジ（みやっこ🍊range）がスタート!

➡ わかみや会ボランティアに向けてステップアップ講座をしてチームオレンジ第1号へ

課題

- 本人や家族への説明が不十分。（わかみや会では、動画作成の前、数か月にわたり、動画撮影の趣旨や動画の役割など説明したが…）
- 『認知症であってもなくてもともに生きていくまち西宮』を実現するために、新しい認知症観の普及啓発とともに、みやっこ🍊rangeの広げ方はまだまだ手探り。
- 本人をはじめ、参加者全員がここでの活動が楽しいと思えることが最優先（国の言うチームオレンジという形にこだわらない）であり、わかみや会への参加が❝結果的にチームオレンジの意識を自然と持てる❞になることが大切という基本的な考えを大事にする。
- 活動しているグループは既に地域に根差した横のつながりを持っている。アンテナを張って、そのグループと協力して、みやっこ🍊rangeを広げていたい。

- 最後に・・・

・チームオレンジは何も特別なことではなく、一人一人が認知症を自分事と捉え、向き合うことから始まります。「認知症であってもなくてもともに生きていく」という想いがあれば、今、あなたが行っていることがすでにチームオレンジなのかもしれません。
・西宮市のみやっこ🍊rangeの想いをもって、身近なことから始めてみませんか。